

公衆衛生学		講義	教授 田中 基晴
科目カテゴリー	スポーツマネジメントコース, スポーツトレーナーコースの専門選択科目 教職科目	科目ナンバリング	11322204 11531203

1. 授業のねらい・概要

日本では少子高齢化が進み、世界全体では食糧や環境問題が深刻化している。これらが私たちの健康や生活に、大きな影響を与えていることは良く知られている。この事態に対処するには、社会を担う一人ひとりが取り組むことが必要であり、人と社会との接点を知ることが重要です。すなわち、第一に人を取り巻く衣食住環境、家庭環境、地域環境、社会制度、地球環境などの知識を身につけることであり、第二に個人のみでなく集団の構造を把握し、健康水準を高めるための戦略、戦術を学び、日常生活に応用できるようにすることである。本講座では、公衆衛生の基本的な知識、考え方、その役割、重要性を学び、理解することを目的とする。

2. 授業の進め方

基本的には、教科書を中心にして講義を進める。必要に応じて参考資料のプリントを配布する。

3. 授業計画

1. 健康の科学としての公衆衛生学	9. 環境の衛生
2. 人口の動向・世界の人口、日本の人口	10. 環境汚染と公害
3. 妊娠・出産、胎児期の保健	11. 感染症：微生物による病気
4. 新生児・乳幼児期の保健	12. 食物と健康
5. 青少年の保健	13. 職業生活と健康
6. 成人期の保健	14. 保健・医療行政
7. 老年期の保健と死の問題	15. まとめ
8. 心の健康と心身障害	

4. 準備学修（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間

前回の講義内容を復習、理解し、授業前に必ず一度は教科書の予定範囲を予習（1時間程度）として読んで、わからない点を把握しておくこと。

5. 課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

筆記試験

- 正解は貼りだす。
- 解説は、不正解問題を中心に行う。

6. 授業における学修の到達目標

- 公衆衛生の概念、感染症、予防医学を理解する。
- 日本及び世界の人口動向について理解する。
- 人の一生の前半期である妊娠、出産と、胎児、新生児、乳幼児、青少年の各期の健康と母子保健、学校保健について学び、理解する。
- 人の健康の維持増進、疾病予防を実践するために関わる環境因子を把握し、環境衛生を学ぶ。

7. 成績評価の方法・基準

1) 基準

公衆衛生学について基礎的な理解ができているかを評価対象とする。

2) 方法

- 受講態度（出席、遅刻、早退、スマホ閲覧、など）（30 %）。（スマホ閲覧を禁止しています）
- 筆記試験（70 %）。

8. テキスト・参考文献

教科書： 学生のための現代公衆衛生 [第8版] 野中浩一 編 南山堂 2022 年

9. 受講上の留意事項

あらかじめ、授業前に必ず一度は予定範囲を読んでおくこと。復習は、その日のうちに行うこと。また不明な点、理解できない点があれば、遠慮しないで質問すること。

10. [実務経験のある教員等による授業科目]の該当の有無

該当する。本授業は、以下の実務経験を生かして実施する。製薬会社における新薬開発の実務経験を活かして指導する。

11. 卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連

上記の「科目カテゴリー」欄の記載のとおり。